

●北海道札幌視覚支援学校付属 理療研修センターで講演と実技及実技指導

日程：2015年9月13日（日）10：00～15：00

会場：北海道札幌視覚支援学校付属理療研修センター

テーマ：陰陽太極鍼による眼科疾患の鍼灸治療

講師：吉川 正子（東方鍼灸院 院長）

上記テーマで講演と実技公開、及び実技指導を行ってまいりました。



その後、同理療研修センター所長石川大先生、担当指導員の古川直樹先生より以下のお便りがありました。

平成 27 年度北海道札幌視覚支援学校附属理療研修センター研修講座の講師について（お礼）

爽秋の候、吉川先生、武田先生におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
また、日頃より当センターの運営につきまして特段のご高配をいただき感謝いたします。

さて、過日実施いたしました第2回東洋医学講座では、ご講演いただき誠にありがとうございました。

おかげさまをもちまして、本講座は多くの成果を収めて終了することができました。陰陽太極鍼の考え方、施術法について深く知る貴重な機会であると共に、問診や触察、治療の流れを拝見することができたことは、今後の臨床において非常に有意義であったと感じています。

今後とも当センター運営へのご支援・ご協力をお願いするとともに、吉川先生、武田先生の益々のご活躍を祈念いたしまして、お礼のあいさつにかえさせていただきます。

平成27年9月18日

北海道札幌視覚支援学校附属理療研修センター所長

石川 大

吉川先生、本日は大変貴重で分かりやすいご講演ありがとうございました。

吉川先生の午前のお話の中で、身体に現れているすべての症状は、臓腑経脈の滞りによって生じているので、最高の治療点を1穴選穴・補瀉し、その経脈を動かしてあげることで複数の疾患に効果を現わすとありましたが、午後の先生の治療の流れを拝見し、よく理解できました。

治療の流れは、問診と舌診、募穴診、ふくらはぎ、頸部の緊張によってある程度、滞りがあると予想される経脈を絞り込んだ上で、最終的には左右手足の12経脈のきめ細やかな切経によって、治療点を決定していく治療技術が非常に勉強になりました。

また、現代は瀉法を必要としている方も多く、少陰心経へも瀉法も行った方が効果が高いことも学びました。

補瀉の方法も非常に簡潔で、瀉法には皮内鍼、補法には王不留行の粒鍼と長い治療経験の中から導き出された技法もすぐに日々の治療に取り入れることができるものと感じました。

そして、先生のお言葉の中で最も心に残ったのは、「患者さんが先生、治療点は患者さんに聞け」という言葉でした。

この言葉は、吉川先生の患者様の痛み苦しみに真摯に向き合う心であり、そして先生の治療の神髄であると私は理解しました。

これからも吉川先生の治療でたくさんの患者様を救っていただくとともに多くの後進の指導を行って、先生の技術を後生へ伝えていただければ幸いです。

それでは、吉川先生、武田先生、ご多用の中、また遠路帯広よりお越しいただき、本当に有難うございました。

平成27年9月13日

北海道札幌視覚支援学校教頭（兼）附属理療研修センター副所長

片平 明彦

昨日は大変丁寧に講座を行っていただき、本当にありがとうございました。また、大変お疲れ様でした。

多くの受講者が熱心に取り組む姿がみられ、大変有意義な時間であったと感じております。陰陽太極鍼での様々な治療経験についてお聞きできる大変貴重な機会でした。

また、実際の施術の流れも細かく見せていただき、大変参考になりました。患者さんの反応をしっかりと受け止め、それを治療に生かす重要性を再認識したところです。また、施術時の身体の変化に大変驚きました。

わたしにとっても大変勉強となりました。教えていただいた治療法など、さっそく活用していきたいと思います。大変お世話になりました。

機会がありましたら、ぜひ、またお話をいただきたいと願っております。本当にありがとうございました。

2015年9月14日

北海道札幌視覚支援学校附属理療研修センター

指導員 古川 直樹